

# 若狭ネット

第103号 2007年 2月 3日

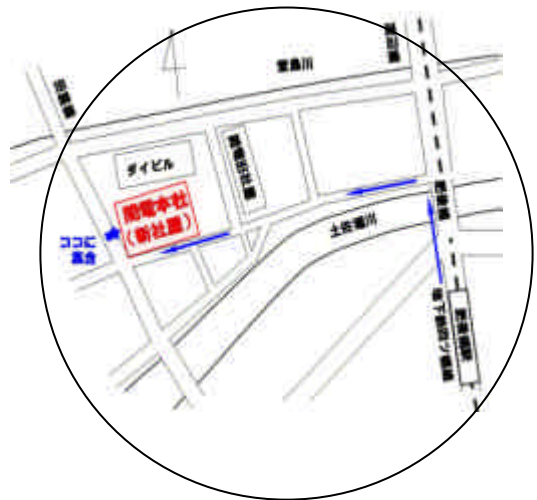
発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先 福井：「止めなくちゃ！

げんぱつ」連絡会(〒915-0235 越前市不老町6-36 山崎方 TEL0778-42-3630) 大阪：日高原発に  
反対する大阪の会(〒583-0005 藤井寺市惣社1-1-21 久保きよ子方 TEL/FAX 0729-39-5660)  
ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/> E-mail: [wakasa@gaea.ocn.ne.jp](mailto:wakasa@gaea.ocn.ne.jp)

## 美浜 3号運転の即刻中止、高浜 1号水漏れ 事故・水力データ改ざん等の究明を 関西電力に求める 申し入れ行動に参加を！

2月9日(金)  
午後6時～



場所：関西電力本社

(地下鉄四つ橋線 肥後橋 駅下車 徒歩5分)

東京電力も、また、関西電力も  
とんでもない企業だ！

東電は、2002年の原発事故隠しや定期検査での虚偽の再発防止と改革を進めるとしていました。しかし、原発データの改ざんがまたまた発覚しました。

国がいくら原発の安全管理の徹底を叫んでも誰が信じるでしょうか。憤りをとおりこし、むなしさすらおぼえます。東電や関電など原発をすすめる電力会社は原発の安全管理の問題が出るたびに、深刻に反省をしたかのごとく、「社内あげて安全を徹底する」という反省文を読み上げるだけです。「このままでは重大事故が起こるぞ！」という「悲鳴」を無視し続け、原発を運転し続けているというのが現状です。

東電は、「国の検査に対し、なんと199回も原発データの改ざんなどでウソの報告をしていた」と発表しました。敦賀市の河瀬市長も2月1日、東電の対応を厳しく批判し、電力各社がつくる電気事業連合会と国に近く、安全確保を求める申し入れをする考えを表明しました。また、日本原子力研究開発機構敦賀本部長の早瀬佑一氏(東電出身)が、国の検査時に不正行為のあった柏崎刈羽原発で、当時同発電所の技術部長だったことから、本人に事情を聴く考えを示しました。「もんじゅ」の運転再開をすすめる責任者が、東電のデータ改ざんをした中心人物である可能性が高いのですから、あわてるのも当たり前でしょう。彼は、本部長就任時「安全最優先と透明性確保に本部長自ら先頭に立って、組織のすみずみまで徹底していきたい」と言っていたのです

から。

関西電力は、1月5日、新年あいさつで福井県知事に「引き続き私自身が先頭に立って安全運転はもとより、全社的に安全文化が浸透するよう努力する」との決意を表明し、1月10日に美浜原発を起動させ、調整運転入りを強行しました。その矢先、14日に高浜1号の定期検査中に作業員が冷却水を浴びるという事故を起こしました。関電の説明によりますと、「一連の作業は、15日に予定した作業量が多いことから、前倒しで一足先に14日に実施した。現場では、手順を示したマニュアルに沿って作業を進めるが、確認などの細かな記載はない」とのことです。関電の定検短縮は、社内の重要な方針ですから、今でも相変わらずやっていたのでしょう。それが、「全社的に安全文化が浸透するよう努力」した結果なのです。

私たちは、自ら社会のモラルに反してでも、またデータのねつ造を繰り返し、国の検査を不正な手段で通ってでも原発の運転を続けようとする電力会社の姿をけっして許すことはできません。

美浜3号事故はいまだ解明されていない！

美浜3号事故について、県警は、「事故が起こる前の7月の段階で配管がすでに危険な領域に入っていたことを関電は知っていたとして、きびしく責任を追及し立件する」と報道され、関電の事情聴取も行いました。

私たちは、この年末年始にかけて、この問題を中心に関電を追及してきました。

まず始めに明らかになったことは、県警がいうように「事故の14～15日前からの調査で、7月末頃、破断部位が未点検であることを発見していた可能性がある」ことでした。しかも、大飯1号の減肉問題で設置

された若狭支社対策本部による7月30日の指示前から前倒しで緊急に調査を始めていたにもかかわらず、なぜか、若狭支社へはすぐに伝えず、さらに1～2週間、のんびり調査を続け、調査結果を報告書にまとめている最中に破断したというのです。そのいわけとして、「日本アームが管理指針に基づいてキチンと管理していると思いこんでいた」というのです。しかし、以前から高浜4号などの点検漏れで、日本アームの見落としをよく知っていたのにおかしなことを言います。さらに、不思議なことに、余寿命評価に極めて敏感な状況が続いていたにもかかわらず、なぜか、「点検漏れの破断部位について余寿命評価を誰も行なわず、28年間未点検だとわかってても余寿命がマイナスになっている可能性に言及する技術者が一人もいなかった」というのです。こんな馬鹿な話は、到底信じられません。

私たちは、「熾烈な定期検査期間短縮競争のため、技術者の目には事故の危険が見えなくなっていたのではないか」と考えています。余寿命を評価して大幅なマイナスであることを改めて知り事故の危険を十分認識しながら、連続運転と定検期間短縮を優先させるトップダウンの号令下であって、「8月14日までこのまま様子を見よう。大丈夫ではないか」という判断に至ったのではないのでしょうか。この「事故の核心部分」が未だに不透明なままです。これを解明せずして、美浜3号事故は終わりません。遺族の無念の心も晴れません。徹底的に明らかにされるべきです。そして、その責任を経営トップがはっきりと分かる形をとるべきだと私たちは考えます。

16年前美浜2号炉蒸気発生器細管破断事故を起こした2月9日には、関電本社に再度申し入れを行います。一緒に参加し、共に追及しましょう。

今後の予定

《美浜3号運転再開に反対する闘い》

2月 9日（金）午後6時～

「美浜2号 蒸気発生器細管破断事故から16年」

## 美浜3号運転の即刻中止、 高浜1号水漏れ事故・水力データ改ざん等の 究明を関西電力に求める申し入れ行動

場所：関西電力本社（地下鉄四つ橋線 肥後橋 駅下車 徒歩5分）

### 「新聞折り込み基金」へのご協力のお礼

美浜町内への「美浜3号炉運転再開反対」の新聞折込基金は、

2007年2月1日現在 計62,500円 あつまりました。

さっそく「原発に頼らない町づくり」をめざす「森と暮らすどんぐり倶楽部」の「森の国から」(NO.1)に、「美浜3号機なぜ今運転再開か?!」の記事を載せ、新聞折込を行いました。費用の4万円は このカンパで出すことができました。

ありがとうございました。今後も続けて行いますので、ご協力をお願いします。

3月 4日（日）午後2時～5時

第6回環境・エネルギー・平和競育の広場、国際女性デー連帯地球サミットから15年、温暖化防止京都会議から10年

## 深刻化する地球環境の危機 を考える」

場所：ヒューマインド(JR環状線 芦原橋駅下車)



### 編集後記

- ・「もんじゅ」の運転再開をめざす日本原子力研究開発機構敦賀本部長の早瀬佑一氏（東電出身）が、柏崎刈羽原発で国の検査時に不正が行われた当時、同発電所の技術部長だったと報道されています。「もんじゅ」では事故のビデオ隠しが問題にされました。それ以上の不正が行われていた当時の技術部長です。日本のエネルギー開発の本命とされる高速増殖炉開発がこんな人たちの手に任せられているとは・・・危ういですね。
- ・関西電力は、事故を起こして11名もの死傷者を出した美浜3号を起動させました。その直後に、高浜1号で定期検査中に、「翌日の検査が多いから」と検査を前倒しにしたため、作業員が放射能混じりの冷却水を浴びるといふ事故が起きました。これが、関西電力の「安全管理」の体質なのです。黙っていても、原発の重大事故が起きてしまいます。引き続いて関電の原発の「安全姿勢」に対して厳しく追及する決意です。
- ・四国の東洋町で、町長が原発から出る高レベルの廃棄物処分場の事前調査について、町の財政赤字をこの交付金で、補填しようと、自ら手を挙げています。本当に許せませんね。

きよ子